

校 内 研 修 計 画

甲州市立松里中学校

1 学校課題

本校の生徒は、授業や生徒会活動にもまじめに取り組み、落ち着いた学校生活を送っている。特に、あいさつに力を入れており、「松中生はよくあいさつをしてくれる」など、地域からも評価されている。学校評価においても、保護者や生徒からの回答で「学校が楽しい」が9割以上となっている。しかし、全体的に受動的な場面が多く見られ、自発的に考え、判断し、実行しようとする意識の低さが課題として挙げられる。今後は、自分の考えを伝える力や表現する力をより一層育むよう「生きる力」の資質や能力、態度として位置づけて研究を進める。

2 研究主題

「自ら求め、学ぶ生徒の育成」

～対話を通じた授業づくり・構造化の追求～

3 主題設定の理由

本校は、一昨年度より「学力向上アクティブ・ラーニング推進事業実践検証校」の指定を受け、2年間「わかる授業の工夫」や「家庭学習の充実」を柱に、生徒の学力向上を図る研究を行ってきた。これらの研究の成果を生かしつつ、研究仮説として挙げた「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の3つの視点で学びの質を高める授業の構造化を図りたいと考える。そのためには、自らが進んで学び、自力解決させ、対話を通して学び合う生徒を育成するとともに、われわれ教師集団が、子どもたちにどのような力をつけさせたいのか、明確にさせながら授業を組み立てなければならないと考える。以上のことから本主題を設定した。

4 研究の具体的な内容と方法

(1) 探究型授業を確立させる研究

1) つけさせたい力、ねらいを明確化する取り組み

甲州市「確かな学力」育成プロジェクトで作られた「甲州市 Teacher's Note」にある授業の構造化をもとに、めあてや本時のねらいを明確にし、生徒が学ぶ目的を持って授業に取り組めるようにする取り組みを継続して行う。

2) 教科横断的な考えを持ち、互いに授業を見合う取り組み

一昨年度「学力向上アクティブ・ラーニング推進事業実践検証校」の指定を受け、多くの研究および研究授業を行ってきた。これまでにそれぞれの先生が培った経験を、全職員が共有できるように、お互いに授業を見合い、意見交換を行う。

3) 青少年赤十字との連携

昨年度より松里中学校区3校は、青少年赤十字の研究指定校となっており、「気づき 考え 実行する」のもと、本年度公開授業をする。

(2) 継続的な研究

1) 学級・集団づくりの質の向上

hyper-QU 調査の実施と結果分析・情報交換、SGE や SST の活用をする。

2) 家庭学習と授業との充実

松中ノート(家庭学習ノート)の充実や甲州市「家庭学習の手引き」の効果的な活用をする。

3) 学びの集会の実施(年2回)

異学年との対話的を目的とした集会の実施をする。

4) 授業規律の環境整備

「話を聞く」「声を出す」「時間を守る」「あいさつ・返事」等の継続的な指導を行う。

年 間 校 内 研 修 計 画

研究主任 佐々木英司

月 日	曜	研 究 内 容	備 考
4月11日	水	昨年度の成果と課題, 今年度の方向性 年間研究計画について	全体
5月16日	水	事前アンケートについて, 学びの集会の提案	全体
6月14日	木	学びの集会 (赤十字, 学習方法について)	
6月15日	金	甲州市「確かな学力」育成プロジェクト 学級・集団 づくり学習会 (鹿嶋真弓先生)	
6月20日	水	K-13 法による Q-U の分析①	学年ブロック
7月 4日	水	甲州市「確かな学力」育成プロジェクト 授業づく り・授業改善学習会 (内藤雅人先生)	
7月11日	水	救急法学習会	赤十字の方を講師 に呼ぶ
7月20日	金	赤十字救急法プログラム学習会	全校
8月24日	金	赤十字公開授業に向けての内容検討, 報告	学年ブロック
9月26日	水	赤十字公開授業に向けての指導案検討	学年ブロック
10月17日	水	甲州市「確かな学力」育成プロジェクト 授業づく り・授業改善学習会 (盛山隆雄先生)	
10月24日	水	赤十字公開授業に向けての最終確認	全体
11月 7日	水	Q-U の分析②	学年ブロック
11月19日	月	青少年赤十字公開授業	
12月 5日	水	道徳の評価化についての学習会	全体, T・C 要請
12月 7日	水	甲州市「確かな学力」育成プロジェクト教育講演会 (河村茂雄先生)	
1月23日	水	甲州市「確かな学力」育成プロジェクト 学級・集団 づくり学習会 (木村泰子先生)	
1月30日	水	事後アンケートの結果と考察, 研究紀要について	全体
2月20日	水	成果と課題, 来年度の方向性	全体